

拓殖大学学友会茨城県支部会報 (Vol.1)

●発行日 平成20年12月6日

●発行者 拓殖大学学友会茨城県支部

●連絡先 〒310-0045 水戸市新原1-3-14 鈴木 克之方 TEL 029-251-3431 FAX 029-254-7887 携帯 090-2220-2724

■箱根駅伝、4年ぶり32回目の出場権獲得！ 【10月18日】



多くのOB、関係者が見守る中、続々と拓殖大学の選手がゴールになだれ込む。5位で予選通過の発表があると、選手たちは感極まって涙する者もいた。今回の予選会では出場枠は13チームと広がったが、拓殖大学の戦前の評価は決して高くはなかった。その中で、堂々のタイムで予選通過を果たしたのは選手たちが自分たちの積み重ねてきた努力を信じて走り抜いた結果であろう。

[監督コメント] 4年間本当にお待たせした。今まで予選を通過できる実力を持ちながらポイントで泣かされて苦渋を味わった。このような卒業生たちがいたからこそ我々は頑張れた。その者たちのことも忘れて欲しい。

本番は来年1月2日、3日に東京大手町～芦ノ湖で開催される。今年の目標はシード権獲得か。県内学友も母校の活躍を応援しよう！

■全国五十八期会、筑波で開催される 【10月26日】 於 ホテルグランド東雲



全国各地で開催されてきた五十八期会が今年につくば市で開催された。参加者は北は北海道から南は沖縄までの18名、つくば開催は深谷礼次郎会員が昨年の会合で提唱し実現したものであったが、開催日直前にご本人が逝去されるという思わぬ事態となった。開会にあたり、全員で深谷会員のご冥福を祈り黙祷を捧げてスタートした。茨城県支部から駆けつけた畑岡前支部長と鈴木支部長が歓迎の言葉を述べさせていただいた。

■県西地区懇親会 【11月1日】 於 筑西市ダイヤモンドホール

県西地区懇談会も今年で第7回目の開催となった。よくぞ続いたものである。幹事役を務めた山田仁学友(学78)のご努力に心からの敬意を払いたい。

今回は佐藤世事副支部長(県西地区担当・学64)の主催者挨拶に始まり、続いて来賓として出席の猪瀬 博全国学友会副会長(学73)、鈴木克之県支部長の挨拶があり、中山攻学友(学64)の乾杯音頭で懇談に入った。和気あいあい、時間が経つのも忘れて楽しいひと時を過ごし、最後に畑岡隆順(学57)の気合いのこもった一本締めでお開きとなった。



■オープンカレッジ in Mito成功裏に終了 【11月8日】 於 ホテルシーズン

会場は県内高校教員、在学生の保護者、OBなどで満員。その中で、渡辺利夫学長が「中国・韓国とどう向き合うか」というテーマで1時間30分にわたって講演をされた。主な内容は、①韓国の反日姿勢は変化するか②中国経済社会の矛盾③胡錦濤の訪日と日中関係④日本はどうする、の4点であった。関心をもちながら日頃なかなか聞けない内容の講演であったので、終了後も質問が多数出され、学長も汗をふきながら対応していた。国際大学である拓殖大学の面目躍如たる1日であった。学長は終了後、県内OBとの懇親会にも出席され、楽しいひと時を過ごされて帰京された。



■アジア・ヨーロッパ学友会議
【11月23日】於 台湾台北市 中正紀念堂



熱く語る台湾元総統李登輝先生



大会の様を報じる台湾有力日刊紙「自由時報」の記事
(帰国時、JAL機内で入手)

去る11月23日、台湾台北の中正紀念堂において拓殖大学学友会アジア・ヨーロッパ学友会会議が開催され、世界各国から多数のOBが参加した。日本からは100名を超える学友が参加し、本県からも猪瀬博全国学友会副会長、鈴木克之支部長、佐藤世事副支部長、為我井和彦学友(学75)、山田仁学友(学78)の5名が参加した。

その会議の中で、李登輝元台湾総統が母校拓殖大学と台湾の関係について1時間にわたって講演をされた。要旨は次のとおりである。➤

「日本が台湾を統治していた時代、2代目の台湾総督桂太郎、台湾総督府民政長官後藤新平は日本国内と同じように台湾に学校を作り、道路や上下水道を整備するなど、善政を敷いた。欧米列強がアジアで行った植民地政策とは全く異なる。そのことを台湾国民は忘れはしない。だから今でも台湾では対日感情が良いのである。母校拓殖大学のOBは太平洋戦争の末期に特攻機で沖縄の海に突入したという悲しい出来事もあった。台湾では拓殖大学には特別な思い入れがあり、そのために多数の台湾からの留学生が拓殖大学に学んでいる。そのOBたちが、現在台湾経済界の重鎮として、また国会議員として活躍している。拓殖大学は前に述べたお二人と新渡戸稲造といった立派な人たちが作り、育てた大学なので発展しないはずはない。関係者の皆様は、拓殖大学のそのような建学の精神に思いを致し、世界的な視野に立ったグローバルな大学として発展してくれることを期待している」

この拓殖大学名誉博士、李登輝先生の講演を聞いて、母校の校歌、「人種の色と地の境、我が立つ前に差別なし」「使命は崇し青年の、力あふるる海の外」の歌詞をそのまま実践してきた大学だったことが理解でき、母校の歴史に大きな誇りを覚えた。

来年は学友会茨城県支部創立60周年を迎える。これを記念して、今度は学友会茨城県支部として台湾を訪問し、大学と関係のある所を見学したり、学友会台湾支部の皆さんと交流が持てたら意義深いことではないだろうか。そうすると、期日は9/19～22あたりか。皆さんのご意見をお寄せいただきたい。

■茨城県支部忘年会
【12月6日】於水戸京成ホテル内「景山」

久々に県支部の忘年会が開催された。

今回の参加者は若い順に①薄井保則(学83)、②佐藤昌一(学82)、③山田仁(学78)、④武中敬幸(学75)、⑤染谷史典(学72)、⑥後藤重史(学72)、⑦飯島幹夫(学70)⑧赤津有治(学67)、⑨佐藤世事(学64)、⑩佐藤勝彦(学64)⑪鈴木克之(学64)、⑫早川廣(学61)、⑬蓼沼正治(学54)⑭石橋武士(学51)、⑮井坂忠(学48)、⑯三宅高三(専22)の16名であった。(敬称略)

今回は座席の位置をくじ引きで決め、年長者、若手が同席するようにした。これは年長者が若手にこれまでの学友会活動を語って聞かせる機会とするためである。

前半は台北市で開催されたアジア・ヨーロッパ会議の様子がビデオで映写され、後半は自己紹介を兼ねて、一人一人が学友会活動に関するコメントを述べる時間にあてられた。その中で、来年は県支部独自に台湾旅行をしたいという希望が多く寄せられた。

なお、今回の忘年会のために、高原芳治OB(専15)から心温まるご芳志をいただいた。このページをお借りして御礼を申し上げる次第である。

■訃報／深谷礼次郎会員逝去【9月28日】

学部58期深谷礼次郎会員におかれましては、去る9月28日逝去されました。同会員にはOB教員会の取りまとめ、会員旅行の企画などで大変お世話になりました。

生前の教育に対する貢献に対して正六位瑞宝双光章が授与されました。同会員のご冥福を心からお祈り申し上げます。

本部会費(4000円)支部会費(2000円)振込先

常陽銀行本店営業部普通預金 No. 1853594

拓殖大学学友会茨城県支部 幹事長 後藤重史(シゲフミ)